



オンラインでの 話し方



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師

とおる ちほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メーテレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人財育成に取り組んでいる。

はじめまして。透千保です。今月からコラムを担当することになりました。生活やビジネスのさまざまなトピックスをご紹介していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

リモートワーク、オンラインでの会議や面接など、実際に人と会わなくても仕事ができるようになりました。昨年の今頃を振り返ると考えられないことですが、今では私も当たり前のようにオンラインツールを使っています。新型コロナウイルスは、これまで人類が経験した多くの感染症と同じように、よい意味でも悪い意味でも私たちの生活に劇的な変化をもたらしたと言えそうです。

確かにオンラインツールを使えば、世界中の誰とでもつながることができ、交通費や時間の節約もできます。会議も短くなっていいことづくめようですが、オンラインでのコミュニケーションでは、対面の時以上に気をつけた方がよい点があります。それは、**1. 表情 2. 声の出し方 3. 間の取り方**です。

まず表情については、どうしても初対面だと堅くなりがちなのですが、オンラインではこれが特に目立ってしまいます。先方に、「機嫌が悪いのかな」「冷たい印象だな」などと思われないようにしたいですね。オンラインでは、周りの空気感が伝わりにくいこともあるので、できるだけ笑顔で口角を上げて話すと相手も話しやすくなります。

次は、声の出し方です。オンライン研修で、20代前半の男性がよい意見を出してくれたのですが、声が小さく早口のため思わずスピーカーに耳を当てて聞いてしまいました。コンピュータに付いているマイクを使用するだけでは、声がこもって聞こえる場合があります。そこで、なるべく口を大きく開けて一音づつはっきり発音するようにすると明瞭に伝わります。大事な点はゆっくり話すなど、聞き手に伝わっているか確かめながら話しましょう。

最後に間の取り方について。先日、会話中の沈黙が気になって話し出したところ、相手も同じように思っていたようで、発言が重なってしまうことがありました。心理学の研究によると、私たちは対面状況では互いに相手の発言のタイミングを予測しながら会話をしており、それによってスムーズな言葉のキャッチ・ボールができるそうです。オンラインでは、そのための情報が限られているので、会話の間を取るということが難しいようです。そこで、普段以上に相手の話を最後まで聞いてから、余裕を持って話し出すという心がまえが大事になります。

さらに、時々カメラ目線です、ジェスチャーなども交えて話すと、より伝わりやすいと思えます。こうして考えてみると、オンラインでの会話は、私たちアナウンサーがテレビカメラの前で話すのと同じ。ぜひ、アナウンサーになったつもりで話してみてください。顔を明るく見せてくれるライティングもお忘れなく。